

発行: 朝霞市剣道連盟(市武道館)
<http://asaken.suki-ari.net>
 編集: 朝霞市剣道連盟事務局
 住所: 朝霞市本町1-12-3朝霞市武道館
 連絡先: 平井 hirai.shigeoh@mbm.nifty.com



朝 剣



朝霞市剣道連盟 会長

内田 明

会長就任にあたり

非常事態の今

朝剣通信に、この見出しを書くのは二度目です。私の前回の会長時代、朝霞市教育委員会学校教育部長を仰せつかった平成二十二年年度の末の二十三年三月十一日に起きた「東日本大震災」の後の四月号の朝剣通信の巻頭言です。九年前の時も、計画停電や原発事故の放射能被害は、日本中を未曾有の大混乱・非常事態に陥れました。「日本中が非常事態ですから、国民が様々な我慢をするのもやむを得ません。」と書きましてもいいませんでした。そして今、再び日本いや世界中が新型コロナウイルス感染症で大混乱し、我慢・忍耐の日々が続いています。まずもって、感染症の被害に遭われた方々へのお見舞いと、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、医療関係の方、介護、保育を支える方など、身の危険を冒しながらも業務に従事されている方々に敬意と感謝を申し上げます。さて、こうした混乱の中で、剣道の稽古、諸行事の中止で総会も実施出来ないまま、根本会長の後を受けて会長をお引き受けることになりました。根本会長の残任期間の令和二年度で、どれだけ活動ができるかわかりませんが、コロナに負けな

いようにして、精一杯頑張りたいと思います。皆でコロナに打ち克ちましよう。

朝霞剣連としては、強く、美しく、礼儀正しい少年剣道を目指すと共に、一般の会員の方も生涯剣道を目指して、一人でも多く稽古に参加する人数を増やして盛り上げ、道場を活気づけたいと考えます。そのためには、会員以外の方がいらした時の稽古内容や言葉遣い等の対応に各自気を付けたいものです。正会員の方の立場と他から稽古を求めて来られた方との立場は違います。何気ない一言で心が傷つき、朝霞市武道館にいらっしやらなくなりました方がこれまでも少なからずいました。言動に気を付けましよう。

今年度はコロナの影響で、どれだけ行事が実施できるか見えないところですが、来年(令和三年)の三月二十八日に予定している連盟創立六十周年記念剣道大会及び祝賀会については何とか実施したいところです。成功に向けて、是非皆様のご協力をお願い致します。

朝霞地区剣道連盟の沿革

創立六十周年と書きましたが、実は会長を兼任している四市剣道連盟の上部組織である朝霞地区剣道連盟が創立して六十周年ということなのです。

この沿革については、平成二十三年九月に、当時の埼玉県剣道連盟豊嶋会長から依頼されて県の広報誌「剣風」に載せた原稿から引用します。当時原稿を書くに当たっては、故岡野義一朝霞市長・剣道連盟会長により体協の記念誌に掲載されたものを参考にしました。

朝霞地区における剣道の歴史は、志木市敷島神社境内の石碑によると、明治初期、志木宿に住んでいた彰義隊生き残りの稲田氏が剣道場「養気館」を建て、近郷の青年に剣道を教えていたとあります。高弟川合五郎兵衛(後に朝霞膝折村長)は、朝霞下の原に道場を建て、近在の青年達に剣道を教えました。昭和初期、朝霞の岡駐在所に赴任してきた剣道錬士四段の高橋栄一郎巡査と朝霞の有力者である相沢栄三二段(後に県議)が地元有志と共に道場を建て、「一剣報国会」を結成して普及発展に努めました。そして昭和十一年、旧武徳殿で開催された埼玉県南部銃・剣道大会に出場した一剣報国会は、強豪浦和、大宮川口を撃破し、大優勝旗を朝霞に持ち帰ったのです。戦後、剣道が復活されて、朝霞警察署敷地内に柔剣道場が出来てから、剣道愛好家により、朝霞にも剣道連盟をつくらうという話が持ち上がりました。中心となったのは、前田武雄・小沢武芳・鈴木仁二・佐藤昭一・岡野義一・荒谷良雄・相澤二郎・渡辺五郎氏等でした。こうして、昭和三十五年五月、朝霞地区剣道連盟創立総会及び記念剣道大会を開催したのです。

その後、地区内剣道人口の増加に伴い、朝霞から志木市、新座市、和光市と順に分離し、四市それぞれの剣道連盟として発足し、上部機関としての朝霞地区剣道連盟となりました。

今やそれぞれの管轄下の道場を含めると、十数団体が活発な活動を行っています。これまで、昭和四十一年の埼玉体協主催県大会優勝をはじめ、県大会、関東大会、全国大会で優秀な成績を収める選手や団体が続出しています。

「運・鈍・根」の教え

この言葉は、私の大学剣道部時代の恩師の一人である塩入先生が大学に赴任された初日に話された言葉の一つです。私には新鮮な言葉でした。今も稽古をする上での私のモットーになっています。

この言葉を解説すると、剣道を含めて芸道で大成するにはこの三つが大切だということ。初めの「運」は幸運とか運をつかむ、の「鈍」は鈍いという字です。運動神経の優れた子、勘の鋭い子は、すぐ上手になりますが、天辺をつかむと飽きてやめてしまうことが多いのに対して、鈍い子はいつまでたっても「もうちょっとと上手くなるまで、もう少し頑張ろう」と努力を続けるので、結果として大成する。三つ目の「根」は根気です。粘り強く続ける根気。継続は力なり、ということなのです。

私が今こうして剣道が続けられるのも、剣道の手ほどきを受けた今は亡き連盟創立当時の先生方や、私の剣道観を形成してくれた大学剣道部、そして、稽古の相手をして下さる剣友皆様のおかげであります。

今後、皆様のご指導ご協力をいただいて、少しでも朝霞市剣道連盟の発展に貢献できるように頑張っていきたいと思います。